

教職コンソーシアム通信

# 学びの架け橋



人にまっすぐ。  
大阪教育大学

**01** 大教大キューピッド始動

**02** リレーエッセイ

**03** 交流事業の紹介

**05** 加盟校出身学生・卒業生の紹介

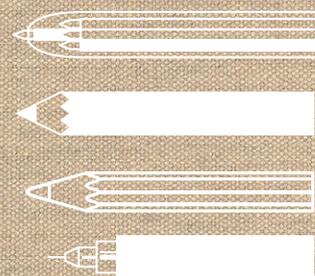
**06** 加盟校の取り組み紹介

**07** 大学トピックス／編集後記

## キャンパスの魅力を後輩に 母校と大学をつなぐ「大教大キューピッド」始動

学生が愛のキューピッドとなり、大阪教育大学と出身高校を結びつける新プロジェクト「大教大キューピッド」がスタートしました。学生が母校に凱旋し、自身の学生生活を紹介したり、大学体験イベントで高校生と交流したりと、学生が主役となって入試広報活動を展開します。(詳細記事3ページ)





## 日々おもうこと

大阪府立泉陽高等学校 浅田 充彦

私は子供のころ飛行機が大好きで、部屋の本棚は飛行機の本とプラモデルだらけ、天井からも釣り糸でたくさんの飛行機がぶら下がっているといった状態でした。就きたい職業は当然パイロットです。それも航空自衛隊の戦闘機のパイロットになるのが夢でした。

中学校に入ると防衛大学への進学を目指して一生懸命勉強に励みました。ところが、(恐らく勉強のしすぎだと思いますが…笑)中1の時に2.0あった視力が中2の終わりには0.3に低下してしまいました。パイロットには視力が要求されるため、視力回復に努めたがいっこうに回復しません。こうした状況の中、さらに追い打ちがかかります。中学3年生の春休みに体調を壊して入院し、1学期ほぼ全て欠席してしまいました。中学校2年生まではクラスでも上位の方でしたから、学校に行けるようになればどうにでもなるだろうと甘く考えて、この間勉強は全くやりませんでした。2学期から登校できるようになりましたが、定期考査では以前のような成績が取れなくなっていました。結局最後まで取り戻すことができず、かつて自分が進学を希望していた高校を受験することすらできませんでした。

こうして私は自宅から一番近い府立高校に進学することになりました。視力がさらに低下したため、すでにパイロットの夢を諦め、運が悪かったと自分に言い訳しながら拗ねて勉強から目を避けていました。なんと初めての実力テストはビリから数えて10番くらいでした。

そんな中、私の知的好奇心を呼び覚ましてくださったのは、国語のK森先生でした。先生の漢文、特に史記や十八史略の授業が好きで、先生の語りを聴いていると登場人物が生き生きと目に見えるような気がしました。先生の授業がきっかけで私は読書するようになりました。次いで、2年生になって現代文を担当してくださったのがK西先生でした。先生は授業の中で文章を構造化し、要点はどこなのか、それがどうして言えるのかや根拠を論理的にきちんと納得できるように見せてくださいましたので、理解が進みました。おかげで、2年生からは有名な作家の小説や評論文を読み込むようになりました。本当に寝る間も惜しんで読書に明け暮れまし

た。すると不思議なもので、国語は言うまでもなく、他の教科の成績もどんどん上がっていきました。きっと読書を通して読解力や論理力、思考力が身に付いたのだと思います。

このお二人の「K先生」がいらっしゃらなければ私は少なくとも国語の教師にはなっていません。そう考えると人生の恩人なわけなのですが、お二人とも私の人生に大きな影響を与えたことをご存じありません。私は先生に質問に行くということがない質なので、そもそもお二人とほとんどお話したこともすらありませんので、国語の教師になりたいとか、なったといった話も勿論したことはありません。でも、自分が教師になって授業を行う際に、古典はK森先生、現代文はK西先生のスタイルを常に意識しました。校長である現在も国語の講習を行っていますが、そのスタイルは全く変わっていません。

現在、泉陽高校の校長として、生徒たちとはできるだけ「濃く」交わりたいと思いながら毎日いろんな形で接していますので、何がしかの影響は与えているのだと思います。結果として、大げさかもしれませんが、生徒たちの人生を左右することがあるのかもしれない。考えれば恐ろしいことですね。そんな日々を重ねながら私は、私にとっての「お二人のK先生」のような、誰かにとっての「A先生」になれたらなあと思いながら毎日を過ごしています。

人を育てる「教師」という仕事には、その人の人生を左右する大きな責任が伴います。その責任は頑張れば頑張るほど大きさと重みを増していきます。辛いことも落ち込む時も多々あります。でも、補って余りある喜びと充実感に溢れる愛すべき職業です。

これから教師を目指される皆さん、この私の拙い文章を読んでいただいて、あなたの胸に「誰かにとっての『〇〇先生』を目指そう！」という気が少しでも湧くなら、私にとってこんなに幸せなことはありませんね。



浅田 充彦 あさだ みつひこ  
大阪府立泉陽高等学校校長



## 入試広報新プロジェクト「大教大キューピッド」始動

学生が愛のキューピッドとなり、本学と母校を結びつける新プロジェクト「大教大キューピッド」がスタートしました。このプロジェクトでは、学生が出身高校に凱旋して自身の学生生活を紹介したり、大学体験イベントで高校生と交流したりと、学生が主役となって入試広報活動を展開します。

100人を超える学生が応募し、6月1日に行われた説明会にはそのうちの31人が参加しました。学生たちは概要説明に熱心にメモをとり、多くの質問や意見が交わされました。

プロジェクトを統括する広報担当の中西正人理事は、「多くの受験生に本学の魅力を広めるために、こんなにも熱意ある学生が志願してくれてうれしい。高校生とふれあい、つながるとともに、皆

さん自身の人間力を高めるためのツールにしてほしい」と呼びかけました。また、推進役の恩知忠司教授は、「大学の最大の魅力は学生。ぜひ皆さんの若い力で、次世代人材を育成するプログラムをつくり上げてほしい」とエールを送りました。

説明会では、大教大キューピッド任命書も授与されました。代表して中西理事から証書を受け取った朝比奈紀子さん(人間科学専攻1回生)は、「緑に囲まれ、個性豊かな学生たちが行き交うキャンパスの魅力を後輩たちに伝えたい」と意気込みを語っていました。

学生たちは今後、年間約50校の高校を訪問する予定です。



説明会の様子



中西正人理事



恩知忠司教授



任命書を授与される朝比奈さん(左)



## 本学教員が府立池田高でアクティブラーニング研修

大阪教育大学の教員によるアクティブラーニング研修が、大阪府立池田高等学校で5月13日に開催され、同校の教員約50人が参加しました。

この研修は、授業におけるアクティブラーニングの実践化をめざして実施されました。講師を務めた本学連合教職大学院の木原俊行教授と教職教育研究センターの恩知忠司教授は、事前に同校の前田貴司教諭の英語コミュニケーションおよび酒井章教諭の数学Iの授業を視察しました。それぞれのアクティブラーニングの導入状況を確認したうえで、その写真を資料に盛り込んで講義に臨みました。

はじめに木原教授がアクティブラーニングの定義や特徴を語り、「タブレット端末の利用による思考の共有の促進」「合科的・プロジェクト的な学びに資する教材の開発」などに関する多くの実践事例を紹介しました。続いて、恩知教授の指導でグ

ループワークを行い、参加者たちは自身の授業でアクティブラーニングを具体的にどう実践するか考え、互いに発表しました。

授業視察を受けた前田教諭は、「あえてアクティブラーニングからは遠い、受験を意識した授業を行い、大変参考になるご意見を多くいただきました。生徒を主体的に関わらせる仕掛けが作用すれば、どんな授業もアクティブに変化するというのが持論ですが、その思いをますます強くしました」と語りました。研修を企画した同校の宮崎剛指導教諭は「木原先生の『身体的』『知的』『社会的』という概念による定義には、皆なるほどと感心させられました。また、恩知先生の『“育てたい生徒像”をしっかりと持ち、いかに授業実践の中で具体化するか』という言葉が強く心に残りました。この研修で、アクティブラーニングについての考えを随分整理できたように思います」と話しました。



木原教授の講義



グループワーク

## 先輩大教生の1日に密着!



## 数学好きの同期と“スージョトーク”してます!

教養学科数理科学専攻 1回生

みなみ しおり

南 汐里さん

大阪府立和泉高等学校 2015年度卒

入学のきっかけは?

和泉高時代、大教の数理科学専攻との交流会に参加し、先輩学生の「同じ志を持つ仲間がたくさんいる」という言葉に惹かれました。大学では同期の数学好き女子たちと、リケジョならぬスージョトークで盛り上がっています!

9:45~  
山登りから1日がスタート!



1時間半の電車通学から、大教大名物の長いエスカレーターと階段で“山頂”まで登ります。「受験勉強でなまっていた足に筋肉が甦りました」の言葉通り、なんと通学で3kgも痩せたとか!

10:00~  
憩いの空間でじっくり自習



午前中に講義のない日は自習スペース「レモンルーム」で予習。「ひとりで学習できるスペースと、グループワークできるスペースとに分かれているのがうれしい。わたしの憩いの空間です」

12:15~  
バイキングは鶏ももがおすすめ!



スージョたちとランチタイム。この日訪れたのはバイキング形式の第二食堂。「グラム制なので、野菜たっぷりでもすごくリーズナブル。特におすすめなのはジューシーな鶏もも!」

13:05~  
好きなことをたっぶり学ぶ



この日の午後は数学授業がみっちり。「先生たちは皆筋金入りの数学好き。難しい理論もわかりやすく解説してくれ、質疑応答も丁寧なので、授業テクニックの参考にもなります」

17:00~  
気の合う仲間と汗を流す



いつも仲良し4人組。ウェアもおそろい。



講義の後は、市内の体育館で卓球サークル「LOVE ALL」の仲間たちと汗を流します。「活動は週2回なので、バイトと両立しながら参加できます。みんなと他愛もない話をしながら歩く時間もすごく好き」

20:20~  
「教える」喜びを実感



地元に戻り、最近始めたばかりのアルバイト先の個別指導塾へ。スーツに着替え、中学生に数学と英語を教えています。「子どもたちからの『先生ありがとう』の言葉に、先生っていいな、教えるって素敵だなとあらためて思えます。初めてのお給料は両親にプレゼントして親孝行する予定です!」

大教で  
一緒に楽しもう!



五月祭で友達になったよ!

「大学で友達が作れるか不安な人はぜひ大教へ! 新入生歓迎企画として、たこ焼きパーティーが開かれたり、春の学園祭「五月祭」では、他専攻の1回生と合同で屋台を出したりと、同回生との絆を深める機会が満載です!」



# 加盟校の取り組み紹介

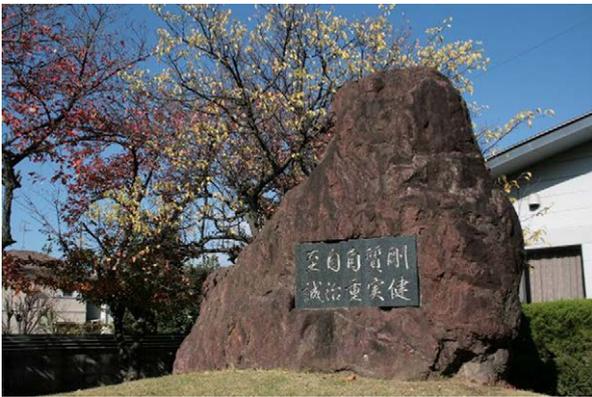
MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

## 大阪府立生野高等学校

### 1 沿革

本校は1920年に大阪府立第十二中学校として大阪市生野区に設立されました。1948年に大阪府立生野高等学校となり、1969年に大阪府松原市に移ってきました。

初代校長の池田多助(たすく)先生は、「剛健、質実、自重、自治、至誠」の五綱領を校訓として定められました。五綱領は現在も、本校時習館前の天然石に刻印され本校生に受け継がれています。



### 2 全国1番・3番・5番

大学通信社等の発表によれば、大阪市立大学の合格者数が48名で全国1位、大阪教育大学の合格者数が16名で過去3年間平均全国3位、大阪府立大学の合格者数が27名で全国第5位となっています。大阪市立大学が大阪市、大阪教育大学は柏原市、大阪府立大学は堺市にあり、本校からも近く、多くの本校生が進学します。より遠方の国公立大学へ進学する生徒もありますが、高校近くの国公立大学の進学意欲が高いのも本校生の特徴です。

### 3 二百名を超す生野登高会

池田多助氏作曲の「登高賦」が本校校歌ですが、登高会という本校卒業教員の会があります。現在、二百名を超す会員がいます。卒業した後も、教育の在り方を考え研鑽を積むという姿が五綱領を胸に抱く生野校生の特徴です。

### 4 GLHSとSSH

現在、GLHS(グローバル・リーダーズ・ハイスクール)10校[北野・豊中・茨木・大手前・四條畷・高津・天王寺・生野・三国丘・岸和田]の1校であり、ケンブリッジ大学のセミナーや、高校生が理科・数学分野

の研究成果を発表する「大阪サイエンスデイ」、最先端の科学研究を体験するプログラム「京都大学ELCAS」および「大阪大学SEEDS」などに参加しています。SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)については、平成27年度から指定2期目に入り、平成31年度までの5年間継続研究していきます。現在は、グループを組んで1つのテーマを1年間かけて研究し、研究論文をまとめて英語でプレゼンテーションする「探究講座」に取り組んでいます。



### 5 部活動と授業

部活動も、平成28年度に入ってから、陸上競技部がインターハイ大阪予選大会で、男子4×100mリレーと男子4×400mリレーで公立高校として32年ぶりにダブル優勝したり、男子軟式テニス部が個人の部でインターハイ進出をはたしています。



校舎は47年目ですが、中庭には池があり、落ち着いた環境のもと日々勉学に取り組んでいます。

### 「地域の中で自分らしく」 大橋グレース愛喜恵さんが講演

NHK教育テレビの障がい者向け情報番組「バリバラ」のMCで、多発性硬化症という難病と闘う大橋グレース愛喜恵さんが、本学の授業で講演しました。

グレースさんは柔道の米国代表選手だった時に発病。父親の故郷である栃木県に移住しましたが、東日本大震災がきっかけで、NPO法人「自立生活夢宙センター」(大阪市住之江区)に身を寄せました。

現在は同センターの職員として、障がいや病気で意見を伝えられない人などの権利を代弁する「アドボカシー」活動の啓発に取り組んでいます。障がい者の「自分らしい」生活を支援する同センターで、食べ物や服装を自由に選び、恋愛や仕事を楽しんでいる日常を笑顔で話し、「地域の中で自分らしく生きていけることがうれしい。仲間がいることで、強くも、やさしくも、厳しくもなれる」と学生らに語りかけました。

受講した学生たちは「私たちと同じような生活をしていると知り、ハンディキャップがあると思っていたのは大きな間違いだった」「義務感でなく、権利を尊重した手伝いをしたい」などと感想を話しました。



### “イクメン”パパが 学生たちに育児を語る

小崎恭弘准教授(家政教育講座)の授業「保育学I」で、“イクメン”パパが育児や仕事、結婚などを語る「パパティーチャー」プログラムが行われました。

授業に訪れたのは、父親の子育て活動を支援するNPO法人ファザーリング・ジャパン関西に所属する“イクメン”パパ4人・ママ3人とその子供たち6人の計13人。育児休暇を取得した阿川さんは、「子供が好きで早くほしかったが、子育てと家事は別だった」と語り、双子の父である宮本さんは「1人の子供に対して大人は2人いないと大変。双子は過酷だったが、喜びは2倍」と笑いました。また、ママからは出産で退職すると再就職が厳しいことも語られました。

このあと、生後4ヶ月の赤ちゃんから4歳までの子どもたちと学生たちがふれあい、抱っこやお遊びなどのスキンシップを通して、肌のやわらかさや温もり、そして命の重みを実感しました。

受講した女子学生は「まだまだ男性が育休を取得するのは厳しいと思うが、結婚したら夫には是非取ってほしい」と感想を寄せました。



## 編集後記

まずは、この「学びの架け橋」の作成を担当している広報室のメンバーが変わりましたのでお知らせします。5月に本学卒業生で、競泳バタフライで東京五輪出場を目指している小林奈央さんが加わりました。また、7月の人事異動で1人が入れ替わりとなり、広報室はこの新戦力2名を含め5名体制で活動しています。

また、今年度から学生が大教大キューピッドとなり、母校や後輩への思いを胸に、高校や大学でのイベント等で高校生と交流し、大学受験や学生生活を紹介するなど、交流事業や入試広報活動の一翼を担います。

こうした若い力や新しい力により、府立高校教職コンソーシアムとの連携事業が益々発展し交流が深まっていく様子を、この「学びの架け橋」でお届けしたいと思っていますので、どうぞ平成28年度もよろしくお願いします。(O)